

3. 方法

臨海部に造成された埋立地域に生育する樹木の生育実態を把握するために、造成から 44 年が経過した当調査地における現在の個体数調査と樹木測定を行うことで、植栽時における植生の状態と現在の植生の状態の比較を行うことにした。

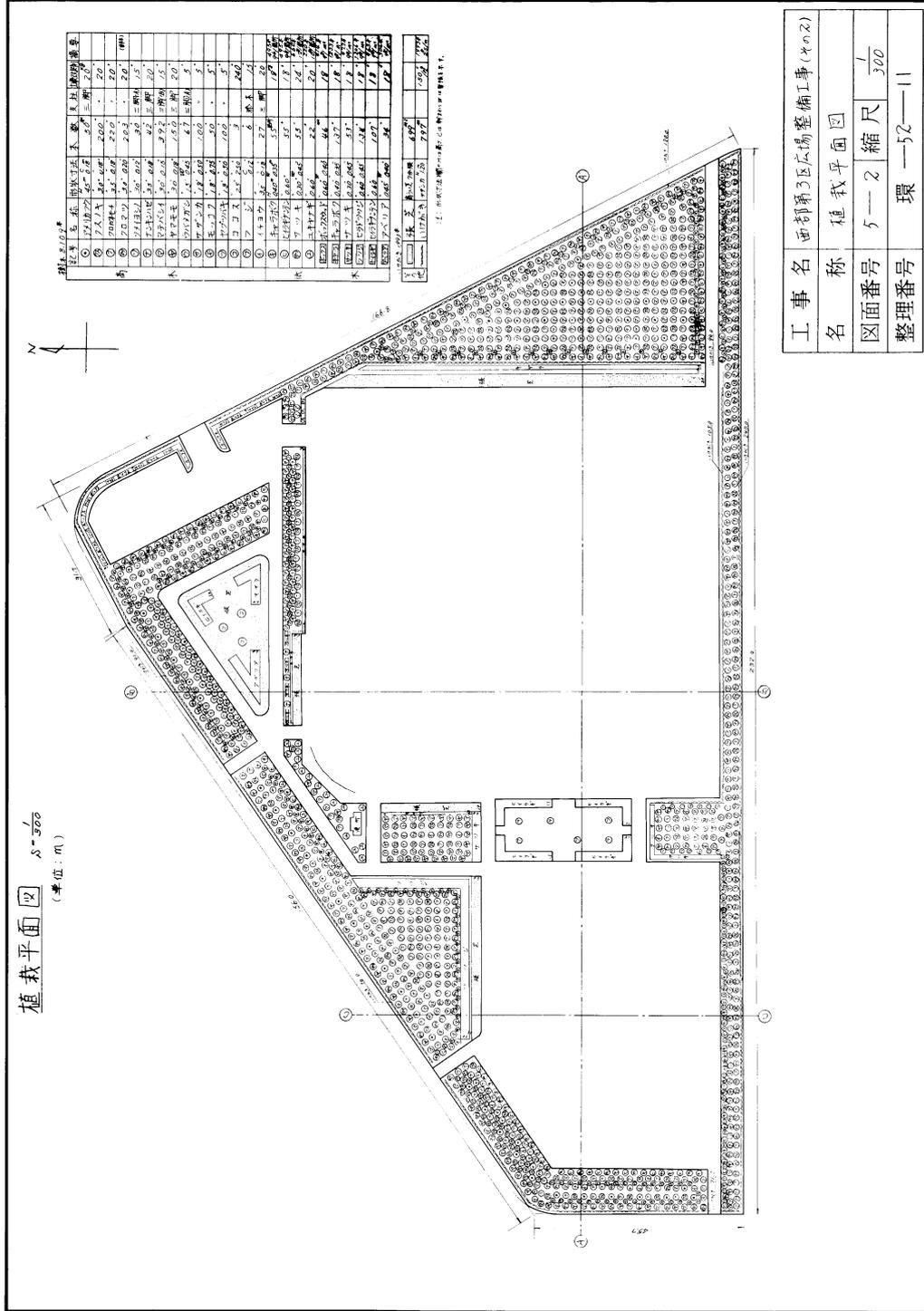
それに伴い、生育実態の変化に対する要因だと考えられる土壌湿度、強熱減量、pH、電気伝導度、土壌硬度などの物理環境の測定を行い（各季節乾燥状態と湿潤状態の 2 回）、個体数調査と樹木測定の結果との関係を調べた。

3.1 枯死樹の個体数調査

公園設計の際の植栽平面図(図-3.1.1)をもとに現地調査を実施し、樹木の樹種、位置の現在の状況を把握した。その際、広場内の樹木の位置を植栽時に区切られた区画ごとに分け(図-3.1.2)、区画ごとの生育実態の把握も行った。植栽平面図のとおり樹種樹木が存在するものについては、個体の樹木測定を実施し、存在が把握できない個体に対しては枯死とした。

また、2020 年度調査の富浜緑地に共通して生育している樹種の枯死率と比較を行うことで、同じ臨海部埋立地であるが、使用目的や植栽のされ方が違う緑地での枯死率の差を考察した。

植栽平面図 S-300
(単位: m)



工事名	西部第3区広場整備工事(402)		
名称	植栽平面図		
図面番号	5-2	縮尺	1/300
整理番号	環-52-11		

図-3.1.1 植栽平面図

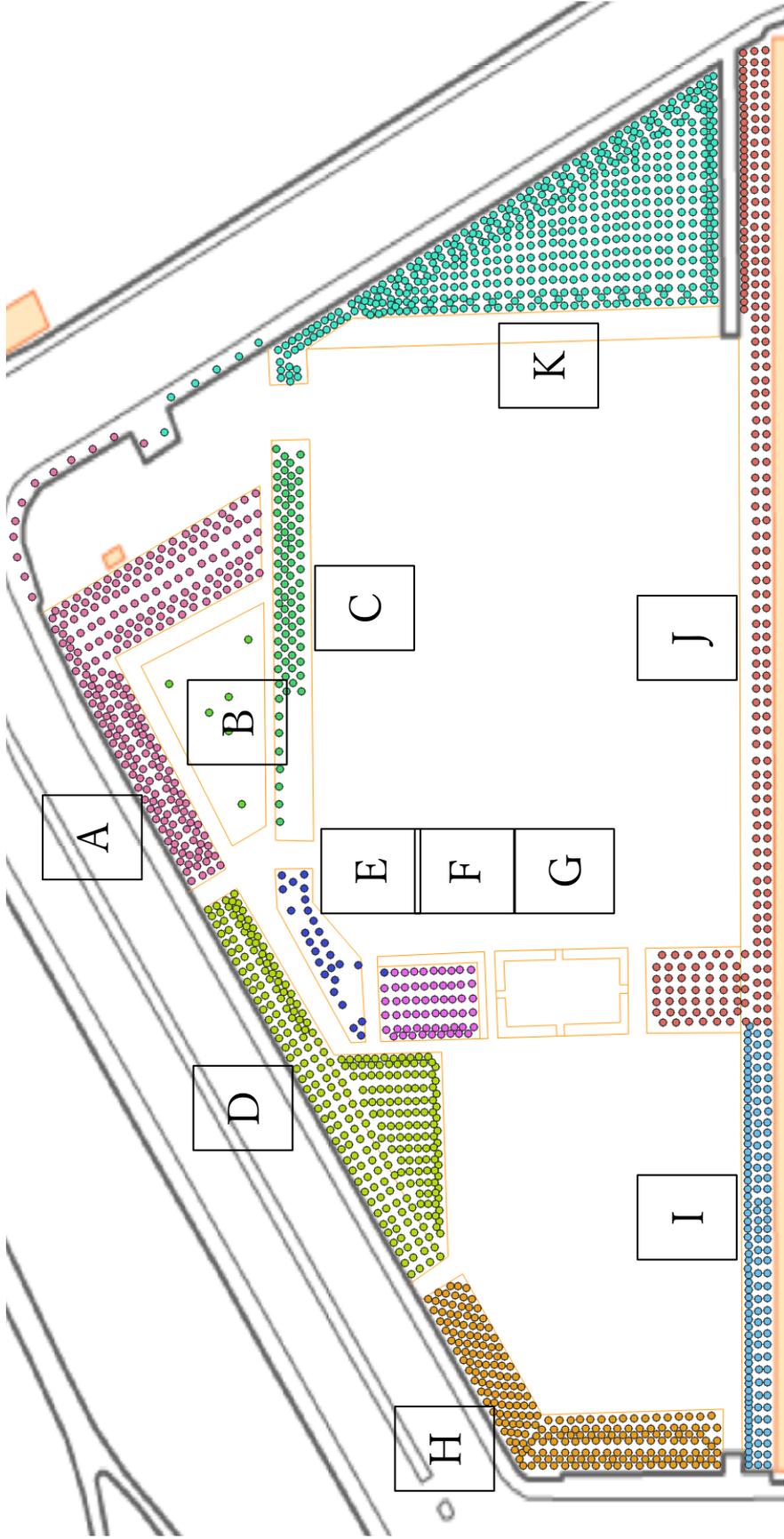


図-3.1.2 広場の区画分け